

平成20年産粗飼料の傾向

●乾草(1番草)の傾向(表1、図1)

20年産チモシー主体混播1番乾草の平均値(表1)を見ると、ここ3カ年は粗蛋白質が低く、OCW、ADFといった繊維が高い傾向が続いています。

これらを詳細に見ていくと、粗蛋白質の分布はここ3カ年の傾向は似ておりますが、粗蛋白質6%以下の割合が多いことが分かります(図1)。

表1 乾草の平均値(乾物%)

	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H20	16.1	7.3	41.7	71.9	16.9
H19	16.2	7.3	42.2	72.8	16.1
H18	17.3	7.7	41.8	71.5	17.1
H17	17.4	9.1	39.8	67.9	17.6
H16	17.8	9.3	39.7	68.6	14.3

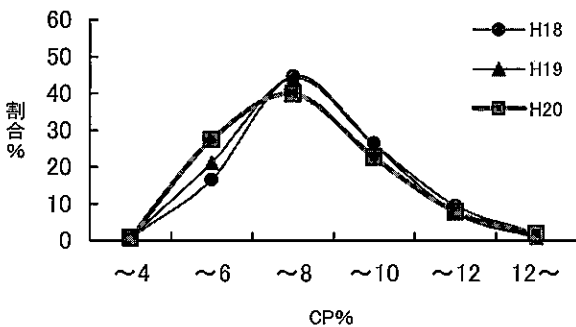


図1 混播乾草のCP分布

●牧草サイレージ(1番草)の傾向(表2、3、4、図2、3)

表2 牧草サイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H20	4.17	73.1	11.7	41.3	68.7	11.4
H19	4.30	73.7	11.8	41.7	69.3	10.7
H18	4.37	74.1	12.4	41.1	68.7	10.8
H17	4.23	73.5	13.1	39.1	66.0	12.1
H16	4.21	73.7	13.4	38.1	64.7	12.3

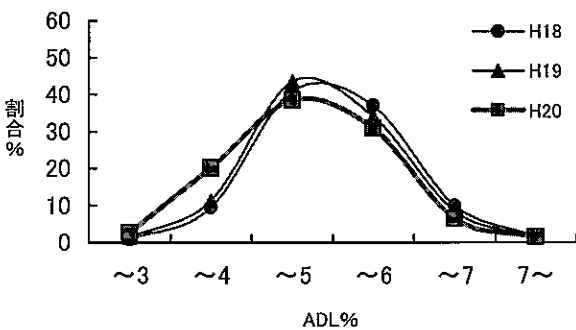


図2 サイレージのリグニン分布

20年産牧草サイレージでも粗蛋白質が低く、OCW、ADFは、昨年より若干は低くなったものの、依然として高い傾向がここ3カ年続いています(表2)。またリグニン含量は4%以下の割合が昨年、一昨年に比べ倍程度になっており、繊維の消化性が改善されているようです(図2)。しかし、各地区で見ても違う傾向も見られるようです。

各地区の粗蛋白質は11.1~13.4%とバラツキがみられます(表3)。OCWなどの繊維は根釧で69.5%と高くなっています。しかし、繊維の消化性をリグニン含量やOb/OCW%で見えていくと、根釧は4.48%、88%と低

くなっています。繊維含量は高いものの消化性は改善されているようです。一方、道央ではリグニン含量5.45%、Ob/OCW%は90.6%と高くなっており、他地区より繊維消化性が劣ることが分かります。このように地区によりその傾向が異なるようですので注意が必要かと思えます。

表3 各地区の牧草サイレージの平均値

	粗蛋白	ADF	OCW	Ob/OCW	リグニン
道央	11.1	42.1	68.6	90.6	5.45
天北	13.4	39.7	66.6	89.1	4.58
道南	12.2	41.6	68.2	89.4	5.10
根釧	11.4	41.4	69.5	88.0	4.48
十勝	12.0	41.2	68.6	88.1	4.56
北見	11.5	41.4	67.8	88.8	4.89

道央は当社営業所の札幌、苫小牧、旭川管内

ラップサイレージも粗蛋白質が低く、OCW、ADFが高い傾向にあり、粗蛋白質はここ数年で一番低い結果となっています(表4)。

粗蛋白質の分布を見てみると、昨年、一昨年に比べ分布の中心が粗蛋白質10~12%から8~10%に移り、低くなっていることが分かります(図3)。

表4 ラップサイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	NFC
H20	4.86	41.0	10.1	40.8	68.8	15.3
H19	4.89	41.9	10.5	40.9	68.5	14.9
H18	4.87	44.5	10.6	41.1	69.0	14.6
H17	4.98	41.0	11.3	37.5	65.2	16.9
H16	4.92	43.7	11.4	36.6	65.1	14.7

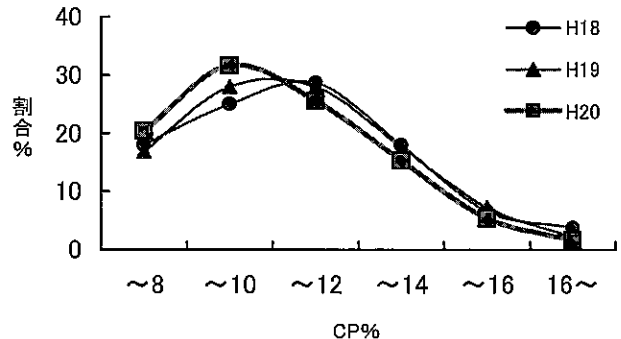


図3 ラップサイレージのCP分布

●まとめ

20年産の粗飼料は全体的に粗蛋白質が低い傾向にあります。一方、ADF、OCWの繊維も高い傾向が続いています。しかし、地域によって変動もありますので注意が必要です。

例年と収穫適期が異なるケースがあつてのではないかと思います。現在、まさに20年産粗飼料を給与している時期かと思えます。今回の内容を情報として利用していただければと考えます。

(分析グループ 篠田)

雪印種苗株式会社

編集発行人 岡村 一範
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL(011)891-5911

FAX(011)891-5774